

概シテ平水ヲ保チ春季ニ高水多ク最大洪水期ハ概ネ夏季若ハ秋季ナリ

三、水利及治水 本支川其上流部ニ耕地多ク之カ爲メ水量ヲ引用セラルルコト少カラサレトモ中流以下山間部ニハ用水ノ引用全クナシ。舟筏ハ高瀬ヨリ下流ニ行ハルルモ水力利用範圍外ニ屬シ其ノ他惡水治水事業等ノ關係ナシ

許可地點トシテハ阿武川ノ中流部ナル篠生、阿良畫間及生雲川ノ下流部ニ山陽電氣株式會社ニ屬スル許可地點アリ又支流藏目喜川ノ下流部ニハ古川鑛業株式會社ノ許可地點ヲ有ス

四、水力地點 許可水力地點數三、其ノ馬力數一四、三五八トス選定水力地點ハ支流佐々並川ニ一地點アルニ過キス

佐々並川水力地點表 水量、落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	互水距離	流域面積	能發電率	年平均馬力數	等級
一〇八六	佐々並川	一	山口縣阿武郡川上村 名古屋	同 郡 川上村 後場	湯水* 二六 低水* 四二 平水* 六九	*五・一〇	一四七二 二、二七八 三、九〇六	三、一〇〇	五二二	一〇〇・〇 九五・三 八三・九	一、五七二 二、二六六 三、二七七	甲

水力地點ノ説明

順位一、〇八六 佐々並川ノ左岸ニ取入レ阿武川本流ニ放流スルモノニシテ隧道延長約一、七五〇間開渠延長約一、三五〇間トス利用水量ハ順位二八四測水所ニ於ケル調査ノ結果ニヨリ推定セリ用水、流木ノ關係ナシ

第二十三章 吉野川水系(四國)

第一節 概説

地形 本流域ハ伊豫、土佐、阿波ノ三箇國ニ跨リ其ノ形東西ニ長ク扁平ナル菱形ヲナシ面積二三一万里ニ達ス。其ノ西北、西南ノ二邊ハ法皇山脈及石鎚山脈ノ餘脈ニシテ東

北、東南ノ二邊ハ讃岐山脈及劍山山脈ナリ而シテ東西二角ヲ連スルニ石鎚山脈ヲ以テシ南北二角ヲ結フニ國界山脈ヲ以テス國界山脈以西ノ地ヲ見ルニ石鎚山脈ヲ界トシテ南分水嶺トノ中間ニ土佐ノ北部ヲ抱ケルモノハ即チ本川ノ上流域ニシテ法皇山脈トノ中間ニ伊豫ノ東部ヲ占ムルモノハ支流銅山川流域ナリ國界山脈以東ノ地ハ即チ阿波ノ北部ニアリテ讃岐山脈ト石鎚山脈トノ中間ニ本川下流域ヲ開キ其ノ南ニアリテ石鎚、劍山ノ二山脈ハ重疊起伏シ以テ支流祖谷、貞光、穴吹等ノ各流域ヲ形成セリ。河ハ流域ノ西南隅ヨリ發源シテ土佐ノ北部ヲ東ニ貫キ阿波ノ西部ヲ北走シ石鎚山脈ヲ穿テテ其ノ北面ニ出テ西方及東方ヨリ來ル銅山、祖谷ノ二川ヲ合セテ遂ニ讃岐山脈ニ遮斷セラレテ東ニ向ヒ貞光、穴吹ノ諸川ヲ南ニ合セ流域ノ東隅ナル紀伊水道ニ注ク。域内ハ一般ニ山嶽重疊シ而モ高峰ニ富ミ山勢急ニシテ恰モ流域全體山ナルカノ觀アリ

地質 劍山山脈ハ秩父古生層ニシテ讃岐山脈ハ中生層ニ屬ス而シテ其ノ中間ヲ占ムルノ地ハ概ネ晶質剝岩系ナリ。古生層及結晶剝岩系ハ本流域ノ最高峻ナル山地ヲ構成スルモノニシテ一般ニ其ノ岩質硬キモ中生層ニ屬スル讃岐山脈ハ其ノ質軟弱ニシテ土砂ヲ流出スルコト激甚ナ

林野狀態 官林ハ吉野川ノ上流ナル本川、大川ノ兩村及本山町附近ニ最廣ク其ノ他銅山川、南小川ノ上流等ニ散在

地目面積表

河川名	地目		山林地		合計
	耕地	原野	針葉樹林	闊葉樹林	
吉野川 (高野測水所以上)	面積(方里)	〇・三二	〇・〇〇	〇・一六	五・五八
	同 百分率	一・六	一・五	一・三	七・五
同 (下土居測水所以上)	面積(方里)	五・五二	三・五五	六・〇八	二二・〇七
	同 百分率	八三・九	五七・九	九二・五	三三・〇
同 (大川持測水所以上)	面積(方里)	七・六	五・五五	七・四〇	二〇・五五
	同 百分率	八三・〇	六三・三	七三・〇	三二・〇
同 (本田測水所以上)	面積(方里)	二・五	一・〇	一・七	五・二
	同 百分率	九・七	三・三	三・三	一六・三

ス其ノ林相概ネ樺、檜、檜等ノ闊葉樹林ニシテ榎、杉、檜、松等ノ針葉樹林之ニ加ハリ鬱蒼タル自然林ヲナス民有林ニアリテハ祖谷川流域内ニ於ケル針闊混滑樹林、銅山川流域内ニ於ケル針葉樹林其ノ他脊梁山脈ニ殘存セル小地域ニ於テ良好ナル森林ヲ見ルモ他ハ概ネ亂伐セラレテ雜木、疎林ヲナシ其ノ見ルヘキモノナシ然レトモ本流域ハ地味肥沃ニシテ天然ニ發芽シ其ノ林相ヲナスヲ以テ敢テ荒廢ノ跡ヲ見ルコトナク且近時長澤、本山等ノ小林區署於テハ水

源涵養ノ目的ヲ以テ盛ニ檜ノ植林ヲ行ヒ民間亦之ニ著目スルニ至リタレハ將來ニ於テハ良好ニ赴クナルヘシ。耕地ハ沿岸平地少キ爲メ何レモ山腹緩傾斜ノ地ヲ開拓セルモノニシテ水田少ク主トシテ畑地ナリ

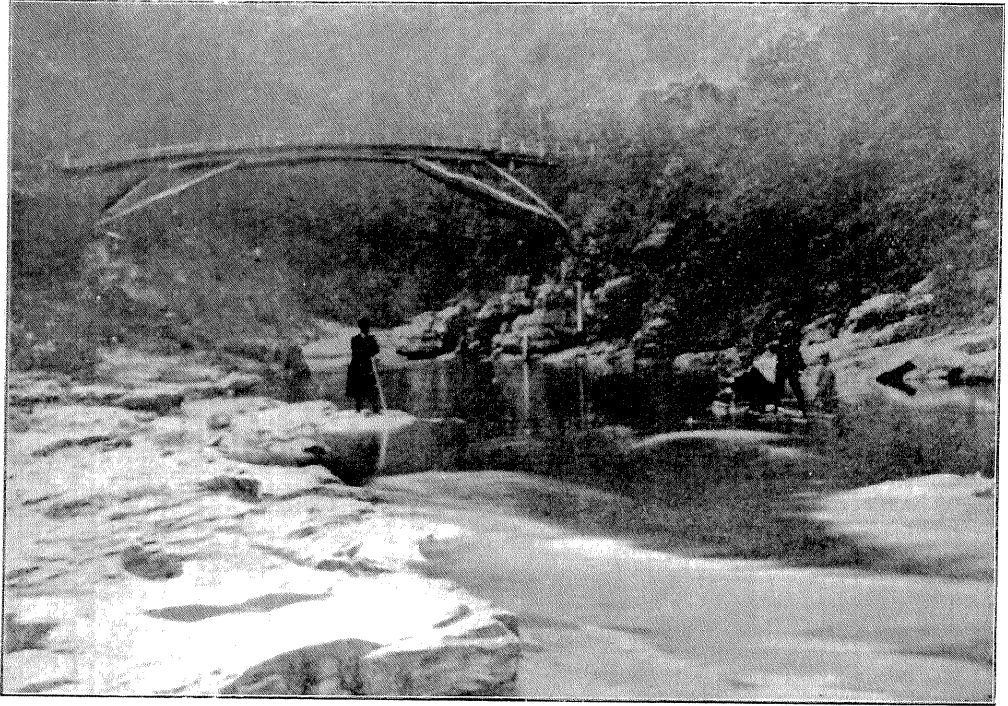
氣象狀態 雨量ハ徳島附近ニ於テ年量一、七〇〇耗内外ヲ保チ美馬郡ニ入り一旦減少スルモ夫ヨリ山間部ニ至ルニ從ヒ漸次ニ之ヲ増加シ三好郡南部ニ至リテ二、〇〇〇耗ヲ超エ土佐郡ニ入りテハ概ネ二、六〇〇耗乃至三、一〇〇耗ヲ示シ水源本川村ニ至レハ三、五〇〇耗内外ニ達ス支流ハ穴内川ニ於ケル三、七〇〇耗ヲ最大トシ銅山川ノ二、六〇〇耗祖谷川ノ二、二〇〇耗等之ニ次キ穴吹川、貞光川ハ最寡ク二、〇〇〇耗内外ナリ。氣温ハ下流部ニ於テ平均一五度内外ヲ保チ山間部ニ至リ漸次低下シ土佐郡ノ中央低地部ニ於テ平均一三度内外ヲ示シ劍山北面ニ於ケル一一度内外ヲ以テ最低トス

第二節 吉野川 (穴吹川合流點迄)

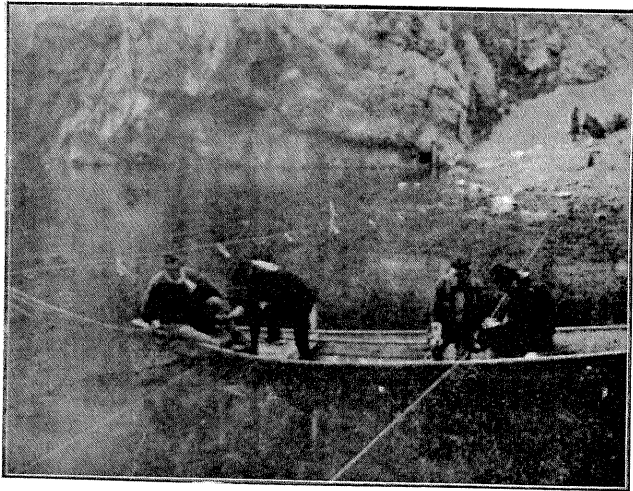
一、河川狀況 本川ハ水源ヲ土佐、伊豫國界ナル瓶ヶ森(一、八九六米)ニ發シテ先ツ東ニ向ヒ長澤ニテ右支大森川ヲ合セテ北ニ折レ日野浦ニテ左支葛原川ヲ容レテ東北ニ向ヒ、

大藪ヨリ東轉シテ船戸ニ至リ南北兩岸ヨリ大北、瀬戸ノ二川ヲ合ス川ハ桃ヶ谷附近ヨリ土佐、長岡ノ郡界ヲ東南ニ流過シ遂ニ長岡郡ニ入り田井ニ至リテ北ヨリ汗見川、南ヨリ森川ヲ合ス之ヨリ郡道ニ沿フテ東北ニ向ヒ川口ニテ左支立川川ヲ合セ穴内ニテ右支穴内川ト合シ以下國道ニ沿フテ東北ニ向ヒ下土居ニテ右支南小川ヲ合セ彎曲シテ北ニ向ヒ遂ニ阿波ニ入りテ左岸ヨリ伊豫川右岸ヨリ祖谷川ヲ合シ池田ニ至リテ再ヒ東ニ轉シ貞光ニテ右支貞光川ヲ合セ穴吹ニ至リテ右支穴吹川ヲ合ス。此ノ流路約四〇里流域面積一、六二方里ナリ

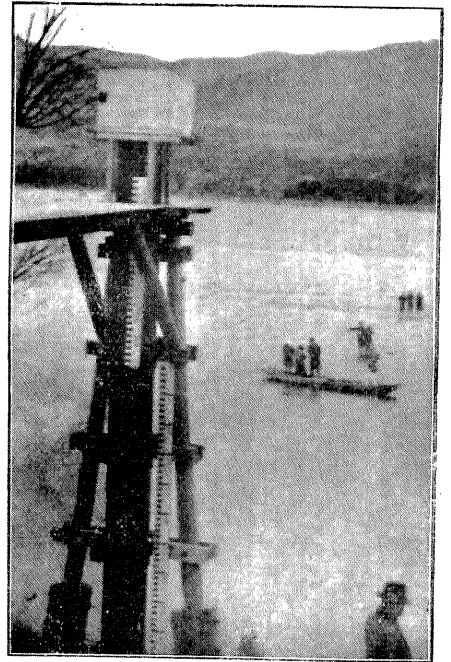
上流ヨリ田井ニ至ル間ハ全ク山間部ニシテ兩岸ハ岩盤ヲ露出シ山勢急峻ニシテ絶壁多ク交通ノ便開ケス河床ハ上流ヨリ井野川ニ至ル附近ハ岩盤多ク勾配比較的急ナルモ井野川ヨリ下流ハ概ネ礫層ニシテ勾配緩ナリ、田井ヨリ川口ニ至ル間ハ兩岸低ク緩傾斜ヲナシ屈曲甚シク河床ニ砂礫ヲ堆積ス、川口ヨリ下土居ニ至ル間ハ兩岸相迫リ河ハ岩盤ノ間ヲ流下スレトモ深淵ヲ成シ殆ト瀨アルヲ見ス、下土居ヨリ白地ニ至ル間ハ一大峽流ニシテ兩岸屹立、斷崖相迫リ所謂大步危、小歩危ノ險所ヲナス河床ハ岩盤又ハ砂礫ニシテ或ハ急瀾ヲナシ或ハ深淵ヲナス、白地ヨリ下流ハ全



(水測上筏) 所水測山端西 川光貞系水川野吉



(水測上舟) 所水測持川大 川野吉系水川野吉



(標水量記自) 所水測田太 川野吉系水川野吉

緩流ニシテ池田町ヲ過クレハ河幅廣ク河床ニハ砂礫高
堆積シ河川其ノ間ヲ蜿蜒流下ス
本川流下勾配左ノ如シ

- 自日ノ浦 至井野川 (約 一五里) 約一九六分ノ一
- 自井野川 至船戸 (四四四〇間) 一五一分ノ一
- 自船戸 至田井 (七六二〇間) 三六三分ノ一
- 自田井 至川口 (八四〇〇間) 六〇一分ノ一
- 自川口 至下土居 (六九六〇間) 五一三分ノ一
- 自下土居 至白地 (一六六八〇間) 二八七分ノ一
- 自白地 至穴吹川合流點 (二二七一〇間) 八三二分ノ一

吉野川流量表

高敷、大川特、太田測水所ニ於ケル大正十年流量ハ大正十一年一月一日ヨリ三月三十一日迄ノ資料ヲ充當シテ査定セルモノナリ

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量					流域一方里當流量					
					年次	最大	平水	低水	湯水	最小	最大	平水	低水	湯水	最小
二八五	六次	吉野川	高知縣土佐郡本川村 高敷	一三、〇〇〇	大正十年 (八月ヨリ 八月迄)	一六、五〇〇	三七六	一六六	六七	六〇	一、四〇〇	二八・三	一一・五	三〇	四・五
二八六	同	同	高知縣長岡郡東豐永村 下土居	六、六四五	大正十年 大正十一年 平均	一〇、〇〇〇	一、七六〇	七五七	四〇〇	三三九	二七二〇	一九・四	一一・四	六二	八・〇
					大正八年	五、〇〇〇	一、〇〇	七三〇	四〇〇	三六五	八三三	一六・六	一〇・九	六〇	五・五
					大正九年	三、〇〇〇	一、四一〇	七七〇	四七〇	四二八	三、〇〇〇	三・二	二・六	七一	六・四
					大正十年	一〇、〇〇〇	一、三〇〇	七六二	三三七	二八七	一、三三〇	二〇・五	一一・八	五二	四・三
					大正十一年	一〇、〇〇〇	一、三〇〇	七五七	三三七	二八七	一、三三〇	二〇・五	一一・八	五二	四・三

本川ハ河幅狭キカ故ニ洪水位高ク中流下土居ニ於テ五
〇餘尺下流太田ニ於テ二五尺餘ニ達スルコト一年中二、三
回ニ止ラスト雖兩岸ノ地盤ハ一般ニ堅硬ニシテ著シク土
砂ヲ流下スルコトナシトスルモ阿讚國界ヲ劃セル本川左
岸一帶ノ山脈ハ岩質脆ク降雨毎ニ夥クシキ土砂ヲ流送ス
ルテ以テ本川ノ河床ヲ埋メ治水上ノ妨害ヲナスコト多
シ

本川流量ハ一般ニ初冬ノ頃最湯水ヲ來シ秋季モ亦稍湯
水ニ近ク冬季ハ低水連續シ春季ニ高水多ク夏季ヨリ初冬
ニ至ル間ニ於テ最大最小流量ヲ生シ流量ノ變化急ナリ
一、水利及治水 河況第一項ノ如ク沿川殆ト平地ナキヲ

第三節 南小川

一、流域 地形 本川ハ吉野川上流ニ於テ右岸ヨリ流入スル支流ニシテ其ノ流域ハ長岡郡東豐永村ノ大部ニ互リテ三角形ヲナシ面積五二六方里ヲ占ム。其ノ一角ハ西ニ向ヒ東南ノ一邊ハ劍山山脈、西南、西北ノ二邊ハ其ノ支脈ヲ以テ圍繞セラレ其ノ最高キハ東南ノ一邊ヲ形成スル連山ニシテ海拔一、〇〇〇米ヲ超エ其ノ他ニアリテハ概ネ五〇〇米乃至六〇〇米ノ間ニアリ

流域ノ大部ハ山地ニ屬スレトモ下流部ノ山勢急峻ニシテ谷迫レルヲ除キ他ハ概シテ急ナラス

地質 流域ノ殆ト全部ハ古生層ニシテ下流吉野川合流點附近ハ晶質剝岩系ニ屬ス

林野狀態 上流谷道山ノ官林ニハ針澗混滑樹密生シ森林狀態良好ナルモ本流域ニ屬スル地積ハ其ノ一小部分ニ

地目面積表

河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	澗葉樹林	針澗混滑樹林	計	
南小川	1,000	100	1,000	1,000	1,000	3,000	5,000
面積(方里)	1,000	100	1,000	1,000	1,000	3,000	5,000
同百分率	20.0	2.0	20.0	20.0	20.0	60.0	100.0

過キス民有林ハ濫伐ノ結果樹木ノナキ所多ク山腹ヲ開墾シテ畑地トナシ或ハ水田トナセルモノ亦多キヲ以テ其ノ狀態良好ナラス

二、河川狀況 水源ヲ流域ノ東北隅ナル京桂山(二、五二五米ニ發シ西南ニ向ヒ大字大瀧字落合ニ於テ鉢森(二、二七〇米ヨリ發シテ北流スル支流ヲ合セ西ニ轉シ下土居ニ至リテ吉野川ニ合ス延長約四里ナリ

落合ヨリ上流ハ兩岸稍開ケタレトモ夫ヨリ下流下土居ニ至ル間ハ谷深ク山勢急峻ニシテ到ル所急湍多シ河床ハ概ネ岩盤ニシテ之カ變化移動スルコト少ナク勾配平均三五分ノ一ナリ。本川ニハ測水所ヲ設定セサリシヲ以テ河川流量ノ變化ハ之ヲ詳ニセス

三、水利及治水 本流域ニハ水田稍多ク之カ灌溉ニハ概ネ溪流ヲ利用スレトモ之カ爲ニ消費セララルル水量少シトセス。流木ハ落合、下土居ノ間ニ管流行ハル其ノ數量ハ年約一、五〇〇、〇〇〇オニシテ時期ハ主トシテ冬季ナリ

其ノ他惡水漁業等ナシ

四、水力地點 選定水力地點數一、其ノ平水馬力數三、一四七トス之ニ許可地點ヲ加算スル時ハ本川ニ於ケル總水力地點數二、其ノ馬力數六、〇〇四ニ達ス

南小川水力地點表

水量及落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	互水長路	面積	發電率	年平均馬力數	等級
一〇九二	南小川	一一	高知縣長岡郡東豐永村大瀧落合	同郡東豐永村下土居大西	低水* 四六 高水* 七七	* 二七〇	一、三九九 二、三〇八	九〇〇	四六六	100.0 九五五	1,379 1,100	甲
					平水* 一〇五		三、一四七			八五六	二、六九四	

水力地點ノ説明

順位一、〇九一 右岸ニ取入レ主トシテ隧道ニ依リテ吉野川本流ニ導キ同川ニ放流ス用水ノ關係ナキモ流木ニ對シテハ落合ヨリ吉野川ニ出ツル迄軌道敷設ノ必要アルヘシ

第四節 銅山川(下流伊豫川)

一、流域 地形及地質 本川ハ吉野川ノ中流ニ於テ左岸ヨリ流入スル支流ニシテ其ノ流域ハ伊豫宇摩郡ノ大部ト阿波三好郡ノ一部トニ互リテ其ノ形東西ニ長ク面積二〇、八三方里ヲ占ム。流域ノ南方ニハ石鏡山脈東西ニ連互シテ吉野川トノ分水嶺ヲナシ北方ニハ其ノ支脈ナル法皇山脈之ト相並走シテ近ク瀬戸内海ニ相對ス此ノ兩山脈ハ何レモ銅山川ニ向ヒテ急ニ傾斜スルヲ以テ谷深ク兩岸概ネ峻峻ナリ。而シテ流域内地質ハ主トシテ晶質剝岩系ヨリ

地目面積表

河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	澗葉樹林	針澗混滑樹林	計	
銅山川	1,000	100	1,000	1,000	1,000	3,000	5,000
面積(方里)	1,000	100	1,000	1,000	1,000	3,000	5,000
同百分率	20.0	2.0	20.0	20.0	20.0	60.0	100.0

ノ經營ニ屬ス其ノ約七割ハ澗葉樹林ニシテ三割ハ植林地ナリ澗葉樹林ニハ老樹少ク針葉樹林ニハ扁柏、落葉松等ノ幼樹密生ス馬立川官林ハ澗葉老樹ニ富ミ良林ナレトモ現今伐採中ナリ其ノ他ハ一般ニ針澗混疎林ニシテ山腹緩傾斜ノ地ハ畑地或ハ肥料地トナレルモノ多ク其ノ狀態概シテ不良ナリ

二河川状態 水源ヲ伊豫土佐ノ國境冠山(一七三二米ニ發シテ別子銅山地方ヲ東方ニ流下シ葛川ニ至リテ東北ニ折レ平野山附近ヨリ東北東ニ向ヒ新宮ニテ右支馬立川ヲ合セ阿波ニ入リテ伊豫川ト稱セラレ川口ニ至リテ吉野川ニ合ス此ノ流路約一七里トス

本川ハ其ノ流ルル所品質剝岩系ノ地ニシテ小屈曲多ク鋸齒狀ヲナス兩岸ハ岩盤露出シ急峻ニシテ絕壁多ク河床概ネ岩盤ナルモ諸所ニ轉石及砂礫ノ堆積セルヲ見ル河川勾配ハ一般ニ上流部及下流部ニ急ナルモ中流部附近ハ割合ニ緩ナリ且本川ハ河幅狭少ナルト下流部ハ吉野川ノ水ニヨリテ排水ヲ妨ケラルルトニヨリ洪水位高ク新宮ニ於テ三〇餘尺川口ニ於テ五〇餘尺ニ達スルコト珍シカラス本川流下勾配ハ略下ノ如シ

銅山川流量表

順位	舊順位	河川	測水所	面積	流量				流域一方里當流量				
					年次	最大	平水	低水	最大	平水	低水	最小	
二八九	七〇	銅山川	愛媛縣宇摩郡新立村新宮	一四一四	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	七五三〇 一九九〇 一七五〇〇 二〇、九〇〇	二五三 一六三 一七七 二八三	一〇二 六六 七三 六	三 六 六 七〇	一四一〇 一四一〇 一三三〇 一四一〇	一七六 一七六 一三九 二〇〇	二五 二五 五二 二七	五二 五五 四七 四九

三、水利及治水 灌溉用水、漁業等ニ關係ナシ。別子銅山ヨリ流レ來ル河水ニハ多少ノ鑛毒ヲ含有シ赤褐色ヲ帶フ。流木ハ上流ヨリ行ハルト雖現今ニ於テハ其ノ大部分ハ支流馬立川ノ伐材ヲ流下スルモノニシテ是等ハ管流ニヨリ吉野川ニ出シ猫坊ヨリ筏ニ編成シ德島市ニ送ラル其ノ狀況ハ吉野川ト同様ニシテ年流下數量ヲ調査スルニ略左ノ如シ

大正八年	一、二四五、〇〇〇才
大正九年	一、四五五、〇〇〇才
大正十年	一、〇五五、〇〇〇才

大正十一年 一、二七四、〇〇〇才

住友經營林ヨリ伐出セル木材ハ概ネ鑛業所ニ於テ消費セラレ其ノ搬出ニ向ツテ本川ヲ利用スルコト稀ナリ
本川馬立ニハ燧洋電氣株式會社ノ經營ニ係ル水力地點アリ又別子山ニ取入レ國領川流域ニ放流スル住友合資會社ノ地點ヲ有ス
四水力地點 選定水力地點數一、其ノ平水時ニ於ケル馬力數一、二六九ニシテ之ニ許可水力地點ヲ加算スルトキハ本川ニ於ケル總水力地點數三、其ノ馬力數二〇、八二二ヲ算ス

銅山川水力地點表 落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	延長	面積	能發電	年平均馬力數	等級
一〇九二	銅山川	五	愛媛縣宇摩郡新立村馬立	同郡金田村金山	平水 一八三 低水 一八三 洪水 二八二	*三六〇	三、四七七 七、三三三 一一、二六九	二、三三〇	一、五二〇	一〇〇〇 九三六 六二九	三、四七七 六、八四五 九、三三三	甲
一〇九三	同	六	德島縣三好郡山城谷村茂城地	同郡山城谷村岩戸	平水 一三二 低水 一三二 洪水 二二四	一四二	二、〇八一 三、六八八 五、八〇〇	三、〇五〇	一、六二〇	一〇〇〇 九三六 六二九	二、〇八一 三、六八八 五、八〇〇	乙

水力地點ノ説明
順位一、〇九二 本川ノ水ヲ左岸ニ取入レ隧道ニヨリテ

金生川流域ニ導キ同川ニ放流スルモノニシテ隧道延長約一、六〇〇間、開渠延長約六二〇間トス燧洋沿海地方ハ廣大

ナル沃野ヲ有スルモ之カ灌溉ニハ概ネ天水ヲ仰クノ状態ニアルヲ以テ本地點ノ利用ニ依リ同地方ニ多量ノ用水ヲ供給スルコトヲ得ヘシ

順位一、〇九三 本地點ハ順位一、〇九二ノ比較線トナルモノニシテ右岸ニ取入口ヲ設ケ銅山川ノ屈曲ヲ利用シ隧道延長約一、六五〇間開渠延長約一、四〇〇間ヲ開鑿ス

以上二地點トモ用水ニ關係ナク流木ハ車道通スルヲ以テ運搬ニハ車馬或ハ軌道ニ依ルヲ得ヘシ

第五節 祖谷川、松尾川

一、流域 地形 本川ハ吉野川ノ中流部ニ於テ右岸ヨリ流入スル支流ニシテ其ノ流域ハ阿波美馬郡ノ西部ト三好郡ノ南部ニ互リテ其ノ形東西ニ長ク菱形ヲナシ面積一七四五方里ヲ占ム。其ノ東南隅ニ立テル劍山(一、九五五米)ハ本川祖谷川ノ水源ヲナシ之ニ起レル劍山山脈ハ西ニ走リテ本流域ノ南部ヲ劃ス其ノ西端京桂山ヨリ石鎚山脈ニ屬スル國見山(二、四〇九米)ニ至ル連嶺ハ即チ本流域ノ西部ヲ限リテ吉野川本川ト界シ劍山ヨリ分レテ黒笠山(一、七〇三米)ニ至ル連嶺ハ祖谷川ノ東部流域ヲ限リ支川貞光川トノ分水嶺ヲナス而シテ黒笠山ヨリ西方國見山ニ至ル石鎚山

脈ハ祖谷川上流域ノ北部ヲ限リテ支川松尾川ト界シ石鎚山脈ノ支脈ハ松尾川流域ノ北部ニ連互シ風呂塔(一、四〇二米)、日ノ丸山(二、四一三米)、腕山(一、三三三米)等起伏セリ。流域内ハ一般ニ山嶽重疊シ而モ高峰ニ富ミ山勢急峻ニシテ殆ト平地ヲ有セズ

地質 祖谷川上流南半小部ノ秩父古生層ヲ除クノ外松尾川トモ全部晶質剝岩系ニ屬ス

林野狀態 本川竝支川松尾川ノ上流ハ交通不便ノ地ニシテ古來斧鉞ヲ加ヘサルノ地多ク元名頃山官林ト稱セラ

地目面積表

河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	闊葉樹林	針闊混	計	
祖谷川 (普通測水所以上)	面積(方里)	同百分率	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	一・〇〇
松尾川 (普通測水所以上)	面積(方里)	同百分率	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	一・〇〇
松尾川 (普通測水所以下)	面積(方里)	同百分率	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	一・〇〇

レタル劍山一帶ノ地、貞光川トノ分水嶺ナル谷切山林及松尾川ノ上流深淵山林其ノ他松尾川、祖谷川分水嶺附近ノ山林等良好ナリシモ漸ク數年以前ヨリ伐採ヲ實行セリ大正林業索道會社ニテハ寒峰峠ヨリ阿波加茂驛ニ通スル索道ヲ設ケ川崎林業會社ニテハ名頃山ヨリ久保ニ至ル間軌

道ヲ敷設シ久保ヨリ本川ヲ利用シ共ニ盛ニ搬出シツツアリ。耕地ハ山腹緩傾斜ノ地ヲ開拓シテ畑地トナセルモノニシテ原野ハ多ク草地ナリ

二、河川狀況 祖谷川ハ水源ヲ劍山ノ西麓ニ發シテ東祖谷山村地方ヲ西ニ流レ新居屋ニ於テ左支谷道川ヲ合セ西祖谷山村ヨリ北ニ向ヒ吉野川本流ト並行シテ石鎚山脈ヲ横斷スル一大峽谷ヲナシ三好郡三繩村大字松尾ニ於テ右支松尾川ヲ合セ西ニ轉シ北ニ流レ大利ニ至リテ吉野川ニ合ス此ノ流路約一三三トス。松尾川ハ黒笠山ニ發源シテ

東祖谷山村地方ヲ西ニ流レ西祖谷山村大字日比原ヨリ北ニ折レ更ニ西ニ轉シテ三繩村ニ至リ祖谷川ニ合ス此ノ流路約六里ナリ

祖谷川及松尾川ノ兩岸ハ概ネ絕壁ニシテ高ク河幅狹ク勾配亦急ナリ祖谷川ハ上流ヨリ東祖谷山村大字西山ニ至ル間及西祖谷山村善徳附近ハ就中急ニシテ夫ヨリ下流松尾川ヲ合流シテヨリ本川吉野川ニ至ル間亦急ナリ。松尾川上流部ニ於テハ勾配緩ナレトモ中流小祖谷ヨリ祖谷川合流點ニ至ル間ハ勾配頗ル急ナリ就中日比原ヨリ下流一

祖谷川、松尾川流量表

順位	番順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量			
					年次	最大	平水	低水	最大	平水	低水	最小
二九〇	一	祖谷川	徳島縣美馬郡西祖谷山村 善徳	一四〇元	大正八年 六〇五〇 大正九年 七六四〇 大正十年 九七四〇 大正十一年 一二八〇〇 平均 一〇七〇〇	三〇 二七 三五 三三	二四 二二 二二 一〇	一六 一七 一七 一〇	五二 五三 五三 六九	三〇 三〇 三〇 三三	一七 一七 一七 一七	一〇 一〇 一〇 一〇
二九一	一	松尾川	徳島縣三好郡三繩村 松尾 宮石	五七〇	大正八年 七、一六〇 大正九年 八、二九〇 大正十年 六、九六〇 大正十一年 一五、〇〇〇 平均 一〇、〇〇〇	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一

里餘ノ間ハ勾配最急ニシテ兩岸到ル處斷崖ヲナシ河中岩盤ヲ露出シ巨岩ノ累積亦多シ。祖谷川ハ最下流ニ至ル迄相當ノ勾配ヲ有スルヲ以テ殆ト全部水力地點トシテ利用スルヲ得ヘク松尾川亦小祖谷ヨリ下流ヲ有效ニ利用スルコトヲ得

本川ノ勾配ハ大略左ノ如シ

祖谷川
自菅生 至若林 (七、五六〇間) 五四分ノ一
自若林 至一字 (約 三二里) 約六五分ノ一
自一字 至大和 (八、三四〇間) 七四分ノ一
松尾川
自小祖谷 至細野 (約 二里) 約三〇分ノ一
自細野 至出合 (約 一五里) 約五〇分ノ一

本川濁水期ハ夏季又ハ初冬ノ頃ヲ普通トシ冬季ハ稍低水春季ハ高水多ク夏季ヨリ初冬ニ至ル間ニ於テ最大最小ヲ生シ流量ノ變化急ナリ

三水利及治水 灌溉用水悪水、漁業等ノ關係ナシ。松尾川ハ流水少量ナルモ祖谷川ハ盛ナリ材種概ネ樺、椴、檜等ノ二間材稀ニ四間材ニシテ是等ハ管流ニヨリ吉野川ニ流下シ猫坊ヨリ筏ニ組ミテ徳島市ニ送ラル季節ハ毎年九月ヨ

リ翌年四月ニ至ル迄ヲ主トス其ノ平流下數量ヲ調査スルニ略左ノ如シ

大正八年 三、五七六、〇〇才
大正九年 一、四五五、五〇才
大正十年 一、〇八六、五〇才
大正十一年 一、六三八、〇〇才

松尾川流域ヨリ伐出セラレタル木材ハ主トシテ索道ニ依リ阿波加茂驛ニ搬出シ汽車積トナスヲ普通トス許可水力地點トシテハ祖谷川上流名頃、釜ヶ谷間ニ祖谷水力電氣株式會社ノ地點二、支流谷道川ニハ同社ニ於テ工事中ノ地點一アリ又本川一字、田ノ内間ニハ四國水力電氣株式會社ノ地點一、松尾川合流點ノ下流本川ニハ同社ノ經營ニ係ル發電所一箇所アリ。松尾川ニ於テハ中流小祖谷ニ大正林業索道株式會社ニ屬スル地點一ヲ有ス

四、水力地點 選定水力地點數五、其ノ平水時ニ於ケル馬力數二八、一九五ニシテ其ノ内二箇地點ハ本調査期間中水利用ヲ許可セラレタルヲ以テ將來利用開發シ得ヘキモノハ三地點ニシテ其ノ平水馬力數一七、八五二ナリ。今之ニ許可水力地點(支流ノ地點ヲ除ク)ヲ加算スル時ハ本川ニ於ケル總水力地點數八、其ノ馬力數三、八、二九七ニ達ス

祖谷川、松尾川水力地點表

順位ニ()ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ
落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水路	面積	發電率	年平均馬力數	等級
(一〇九四)	祖谷川	七	徳島縣美馬郡東祖谷山村 久保	同郡 東祖谷山村 久保 栗原	温水 四三 低水 七五 平水 九八	四八一	二、二九六 四、〇〇四 五、三三二	二、二〇〇	四、三三	九、五五 六、五五 六、五五	二、二六六 三、六二四 四、七九七	甲
(一〇九五)	同	八	徳島縣美馬郡東祖谷山村 奥井 下瀬	同郡 東祖谷山村 和田 下和田	温水 八〇 低水 一三三 平水 一八二	二五三	二、七三三 三、七三三 五、一一一	二、八〇〇	八、〇七	九、五五 六、五五 六、五五	三、三三七 三、三三七 四、三七五	甲
一〇九六	同	九	徳島縣美馬郡西祖谷山村 善徳東	同郡 西祖谷山村 一宇	温水 一三四 低水 二二四 平水 三〇五	三一	七、七三三 一〇、五二九	二、六〇〇	一、三三七	九、五五 六、五五 六、五五	四、六三六 七、七三三 九、〇三三	甲
一〇九七	松尾川	一四	徳島縣美馬郡西祖谷山村 日比原	三好郡 三繩村 水戸	温水 二一 低水 三七 平水 五九	*四五〇	一、〇四九 一、八四八 二、九四七	二、一〇〇	三、六〇	九、五五 六、五五 六、五五	一、〇五九 一、七五九 二、三三七	甲
一〇九八	同	一五	徳島縣三好郡三繩村 松尾 細野	同郡 三繩村 松尾 出合	温水 二六 低水 四七 平水 七三	*五四〇	一、五五八 二、八一七 四、三七六	三、〇〇〇	四、三三	九、五五 六、五五 六、五五	一、五五九 二、六六二 三、六一九	甲

水力地點ノ説明

順位一〇九四 祖谷川ノ右岸ニ取入レ大部分開渠ニ依

○間隧道約一、三〇〇間ヲ開鑿ス(其ノ一部分ハ祖谷川水力電氣株式會社ニ許可)

ル(祖谷川水力電氣株式會社ニ許可)
順位一〇九五 同シク右岸ニ取入レ開渠延長約一、五〇

電氣株式會社ニ許可)
順位一〇九六 同シク右岸ニ取入口ヲ設ケ全部開渠ニ

以上ノ三地點ニハ流木行ハルルヲ以テ之カ計畫ニ對シ相當ノ方法ヲ講シ流下ニ支障ナカラシムルノ要アリ

順位一、〇九七 松尾川ノ左岸ニ取入レ開渠延長約一、五〇〇間、隧道約六〇〇間ヲ開鑿ス貯水池若ハ調整池ハ取入口附近ニ設置シ得ヘキ餘地アリ

順位一、〇九八 松尾川ノ左岸ニ取入レ開渠延長約二、二五〇間、隧道約七五〇間トス

以上ノ二地點ハ附近ニ道路無ク且河岸急峻ニシテ殆ト近ツクヘカラサル處多キヲ以テ工事ハ困難ナルモノト認ム用水ナク流木行ハルモ少量ナリ

第六節 貞光川

一、流域 地形 本川ハ吉野川ノ下流ニ於テ右岸ヨリ流入スル支流ニシテ其ノ流域ハ美馬郡一宇村、端山村及貞光町ノ一町二村ニ跨リ面積八八〇方里ヲ占ム。流域ノ南方ニハ劍山ニ其ノ脈ヲ曳ケル丸笹山(一、七一ニ米、赤帽子山(一、六一ニ米)及石鎚山脈ニ屬スル黒笠山(一、七〇三米、矢筈山(一、八四九米等ノ高峰相重疊シテ登ヘ漸次河ヲ下ルニ從ヒ東西ノ水界ハ益相迫リテ北ニ傾斜シ山勢河岸ニ急峻ナリ斯ノ如ク地勢概ネ急ナルヲ以テ平地ニ乏シク漸ク河口附近

ニ至リテ平潤ナル地域ヲ見ルノミナリ
地質 水源地方ニ古生層ノ小地域ヲ見ルモ他ハ概ネ晶質剝岩系ニ屬ス

林野狀態 本流域ニハ官林ナク概ネ民有林ニシテ其ノ林相ハ主トシテ潤葉樹林ニ屬シ諸處ニ針葉樹林ヲ見ル森

地目面積表

河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	潤葉樹林	針葉樹林	計	
貞光川	〇三三	〇三三	〇三三	〇三三	〇三三	〇三三	七三三
面積(方里)	七三三	七三三	七三三	七三三	七三三	七三三	一〇〇〇〇
同百分率	七三三	七三三	七三三	七三三	七三三	七三三	七三三

林狀態ノ良好ナルハ支流片川ノ自然林ニシテ樺、梅等ノ老樹ニ富ム其ノ他分水嶺附近ニハ稍見ルヘキモノアレトモ大樹古木ナク一般ニ雜木疎林ニシテ其ノ狀態良好ナラス。耕地ハ概ネ畑地ニシテ山腹各所ニ散在セリ

二、河川狀況 水源ヲ劍山ノ北麓ニ發シテ一宇村地方ヲ北ニ流レ一宇口山ニテ左支片川ヲ合ス川ハ之ヨリ一旦東北ニ向フモ土釜附近ヨリ再ヒ北ニ向ヒ貞光町ニテ吉野川ニ合ス此ノ延長約六里ナリ

兩岸ハ概ネ斷崖ヲナシ谷深クシテ流下勾配概シテ急ナリ特ニ土釜附近ハ岩盤隆起シテ河幅狹ク瀑布ト深淵トヲ

形成セリ

河床ハ岩盤ノ露出セル箇所多キモ本川上流ニ於テハ大小ノ地域ニ互リテ山腹ノ崩壞ヲ來シ出水毎ニ土砂河中ニ流入スルヲ以テ河川ノ性質良好ナラス

水力利用ニ屬スル範圍内ニ於ケル河川勾配ハ左ノ如

自一宇口山 至一宇口山(約一三三) 約三二分ノ一

自一宇口山 至猿飼 (三、〇〇〇間) 四二分ノ一
 自猿飼 至皆瀬 (三、一〇〇間) 九九分ノ一
 自皆瀬 至吉野川(三、〇一〇間) 二四三分ノ一

本川流量ハ一般ニ冬季最濁水ヲ來シ秋季モ亦稍濁水ニ近ク春季ヨリ初秋ニ互リテハ高水若ハ低水多ク最大洪水期ハ概ネ夏季若ハ秋季ナリ

貞光川流量表

大正八年流量ハ大正九年一月一日ヨリ同年三月十一日迄ノ資料ヲ充當シテ査定セルモノナリ

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量					
					年次	最大	平水	低水	濁水	最小	最大	平水	低水	濁水
二九二	一	貞光川	徳島縣美馬郡端山村 西端山 高岩	七二五	大正八年 七二〇〇	一〇四	八〇	六七	六七	九九五	一四四	一〇	九二	九三
					大正九年 二五〇〇〇	一一三	七七	六二	六二	三三四五〇	一五六	一〇六	八四	八三
					大正十年 七六三〇	一一〇	八四	六九	六九	一〇五〇	一六六	二六	八〇	八〇
					大正十一年 六八〇〇	一一一	八〇	六三	六三	九三九	一五五	一一	八五	七九
					平均	一一一	八〇	六三	六三	九三九	一五五	一一	八五	七九

三、水利及治水 灌溉用水、漁業、悪水等ニ關係ナシ。流木

ハ毎年十月ヨリ翌年五月ノ間ニ於テ管流行ハル其ノ年流

下數量ハ略左ノ如シ

大正八年 七五三、〇〇〇才
大正九年 一、三七四、〇〇〇才

大正十年 八五九六〇〇才
大正十一年 一、一五三、〇〇〇才

本川ニハ許可水力地點多シ上流一宇口山ヨリ一宇口山ノ間ニ貞光電氣及一宇川水力電氣株式會社ノ地點二、中流猿飼、西端山間ニハ高田鑛業株式會社ノ地點一、又支流

片川ニハ片川電力株式會社ノ地點一ヲ有ス

シテ本地點ハ調査期間中ニ於テ許可トナリタルモノニシテ其ノ許可馬力數ハ一、四〇七ナリ

貞光川水力地點表 順位(一)ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	水路長	流域面積	發電率	年平均馬力數	等級
(一〇九九)	貞光川	一〇	德島縣美馬郡一宇村 一字口山 一字	同 郡 瑞山村 西端山 皆瀬	濁水 五二 低水 六八 平水 九五	四八七	二八二一 三、六七六 五、一三五	三、一五〇	六二	一〇〇〇 九七一 八七〇	二八二一 三、六九六 四、四七	甲

水力地點ノ説明

順位一、〇九九 河川ノ屈曲ヲ利用スルモノニシテ左岸ニ取入レ開渠約一、三五〇間、隧道約一、八〇〇間トス
用水ナシ流木ハ車道通スルヲ以テ運搬ニハ車馬或ハ軌道ニ依ルヲ得ヘシ(高田鑛業株式會社ニ許可)

第七節 穴吹川

一、流域 地形 本川ハ吉野川ノ下流ニ於テ右岸ヨリ流入スル支流ニシテ其ノ流域ハ麻植郡木屋平村、美馬郡半平山村、口山村及穴吹村ノ四箇村ニ跨リ其ノ形南北ニ長ク長方形ヲナシ面積一二六六方里ヲ占ム。流域ノ南部ハ劍山脈ニシテ最高ク西ハ劍山ヨリ北方友内山ニ至ル連嶺ヲ

以テ貞光川流域ト界シ東ハ劍山脈ナル高城山ヨリ石鎚山脈ニ屬スル高越山ニ至ル連嶺ヲ隔テテ吉野川支流鮎喰川流域ニ相對ス其ノ支脈ハ流域内ヲ縱横ニ走リテ重疊起伏シ川ハ劍山ニ發シテ北流ス山勢河ノ兩岸ニ於テ甚ク急ニシテ殆ト平地ト稱スヘキモノヲ有セス
地質 水源地方ニ多少ノ古生層ヲ見ルモ他ハ概ネ晶質剝岩系ニ屬ス
林野狀態 本流域ニ於テハ原野及針葉樹林少ク殆ト闊葉樹林及針闊混溶樹林ナリ前者ニアリテハ櫻、檜等ヲ主トシ其ノ狀態良好ナレトモ後者ハ松樹ニ雜木ヲ交ヘ其ノ狀態不良ナリ。耕地ハ悉ク山腹緩傾斜ノ土地ヲ開拓セルモノニシテ水田少ク概ネ畑地ナリ

地目面積表

河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	闊葉樹林	針闊混溶樹林	計	
穴吹川 (吉野川合流以上)	一、六〇	〇、〇〇	〇、〇〇	三、七六	〇、〇〇	三、七六	二、三三
面積(方里)	一、四〇	〇、〇〇	〇、〇〇	三、四六	〇、〇〇	三、四六	二、〇三
同 百分率	一、四〇	〇、〇〇	〇、〇〇	三、四六	〇、〇〇	三、四六	二、〇三

二、河川狀態 源ヲ劍山ノ北麓ニ發シテ東北ニ向ヒ三ツ木ヨリ急ニ西ニ折レ古宮ヨリ再ヒ東北ニ轉シ穴吹ニ至リテ吉野川ニ合ス流路約一一里ナリ

本川ハ貞光川ト同シク劍山脈及石鎚山脈ヲ横斷シテ流ルルヲ以テ稍急流ヲナシ斷崖屹立セル深溪ヲナス而シテ河床概ネ岩盤ニシテ土砂ヲ流下スルコト少ク河川ノ性質良好ナリ

本川流下勾配次ノ如シ

- 自谷口 至川井 (三、二〇間) 五八分ノ一
- 自川井 至大佐古 (六、二四〇間) 九三分ノ一
- 自大佐古 至田方 (四、九六〇間) 九一分ノ一
- 自田方 至吉野川合流點 (五、一五五間) 二二四分ノ一

本川ニハ測水所ヲ設置セサリシヲ以テ流量ノ變化ヲ詳ニスル能ハサルモ貞光川ニ於ケル變化ト大差ナキモノト認ム

三、水利及治水 灌溉用水、蒸水、漁業ニ關係ナシ。流木ハ毎年十月ヨリ翌年六月ニ至ル間ニ於テ管流ヲ見ル其ノ年流下數量ハ略次ノ如シ

- 大正八年 一、五五二、〇〇〇才
- 大正九年 一、八三七、〇〇〇才
- 大正十年 七五二、〇〇〇才
- 大正十一年 一、五一五、〇〇〇才

許可水力地點トシテハ大佐古ヨリ田方ニ至ル間ニ穴吹川水力電氣株式會社ニ屬スル地點二アリ其ノ上流木屋平三ツ木間ニハ南海電氣工業株式會社ノ地點二ヲ有ス
四、水力地點 選定地點數三、其ノ平水時ニ於ケル馬力數五、二五九ニシテ其ノ内二箇地點ハ本調査期間中水利使用ヲ許可セラレタルヲ以テ將來利用開發シ得ヘキモノハ一地點ニシテ其ノ馬力數一、六三七ニ過キス。今之ニ許可水力地點ヲ加算スル時ハ本川ニ於ケル總水力地點數五、其ノ馬力數七、四六八ヲ算ス

水力地點ノ説明

順位一、一〇〇 左岸ニ取入レ開渠延長約一、四五〇間、隧道延長約三〇〇間トス用水ナシ流木ハ郡道通スルヲ以テ運搬ニハ車馬又ハ軌道ニ依ルヲ得ヘシ(南海電氣工業株式

穴吹川水力地點表 順位一(一)ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ

順位	河川	番地號點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	水路長	流域面積	發電率	年平均馬力數	等級
(1100)	穴吹川	番外	德島縣麻植郡木屋平村 木屋平谷口	同郡木屋平村 川井麻衣	湯水 二二二 低水 二二九 平水 四一	二五三	六一八 八一四 一、一五一	一七五〇	二六一	九七一 八七〇	七九〇 一、〇〇一	六八 甲
(1101)	同	一三	德島縣麻植郡木屋平村 川井麻衣	同郡木屋平村 三ツ木松原	湯水 三九 低水 六〇 平水 七〇	三一八	一、一三七 二、一一八 二、四七一	三、三三〇	四、五三	九七一 八七〇	二、〇五七 二、三五〇	甲
(1102)	同	一二	德島縣美馬郡口山方村	同郡穴吹村 拜村藤ノ本	湯水 八三 低水 一〇九 平水 一五二	九七	八九四 一、一七四 一、六三七	二、五四〇	九八二	一〇〇〇 九七一 八七〇	八九四 一、一四〇 一、四二四	乙

會社ニ許可

順位一、一〇一 本地點ハ河川ノ屈曲ヲ利用スルモノニシテ左岸ニ取入レ隧道延長約一、七二〇間、開渠延長約一、五一〇間トス用水ナシ流水前地點ニ同シ(其ノ一部分ハ南海電氣工業株式會社ニ許可)

順位一、一〇二 同シク河川屈曲ヲ利用スルモノニシテ

右岸ニ取入レ隧道延長約一、二四〇間開渠延長約一、三〇〇

間トス用水ナシ流水前地點ニ同シ

第二十四章 那賀川水系

一、流域 地形 本川ハ阿波第二ノ長流ニシテ其ノ流域ハ那賀海部ノ二郡ニ跨リ西ハ土佐ノ國界ヨリ東ハ紀伊水道ニ連ナリ面積五九四方里ヲ占ム。流域ノ西北隅ニ立テル劍山(一、九五五米)ハ本川那賀川ノ水源ヲナシ之ニ起レル劍山山脈ハ流域ノ北方ヲ劃シテ西ニ延ヒ西ハ其ノ支脈南ニ走リテ阿土ノ國境ヲナス南方ハ海部山脈ニシテ東西ニ